

## 献 辞

経営学部長 村 上 宏 之

原田満範先生は、平成14年3月に定年を待たずに惜しまれながら松山大学をご退職され、同年4月から岡山商科大学商学部教授にご就任されました。

先生は、昭和44年3月に神戸大学大学院経営学研究科修士課程を修了されたのち、ただちに同年4月に松山商科大学（当時）経営学部に助手として赴任され、専任講師、助教授を経て、昭和56年4月に教授に任じられています。また、昭和48年から昭和49年までアメリカ・イリノイ州立大学商学部客員教員に就かれています。先生は、ご退職までの33年間にわたり、ご研究はもちろんのこと、本学学生・大学院生の教育にも熱心に携われてこられ、先生のご薫陶を受けた卒業生・修了生の中には各界の中心的リーダーとしてご活躍されている方も多くいらっしゃると思います。

先生のご専門は、「税務会計論」です。しかし、巻末の研究業績目録から窺えますように、先生のご研究領域は、税務会計論にとどまらず、会計ディスクロージャー、会計フレームワーク等の財務会計システムなども精力的にご研究されており、簿記・会計学全般にわたっています。ご研究の一齣として、昭和60年5月にご論文「会計概念フレームワークの諸相」で日本会計研究学会学会賞を受賞されています。先生には、学部専門科目として「税務会計論」のほか「簿記原理」、「財務会計論」、「会計情報解析論」など、大学院科目として「税務会計論特講」などをご担当いただきました。

先生は、研究室でのデスクワークはもちろんのこと、フィールドワークも重視され、絶えず社会の動向に目を向けられ、時代の変化を先取りしようとする鋭い現実感覚にも富んでいました。公認会計士としてもご活躍されていることから、理論と実務を融合した研究・教育を実践されていました。理論と実務を

ともに分かる先生であっただけに、ご退職は本学および経営学部にとって惜しまれます。

ご在職中、先生は、昭和55年5月から昭和59年3月まで教務委員長、昭和59年4月から昭和63年3月まで就職指導常任委員、昭和63年4月から平成4年3月まで入試委員長、昭和62年4月から平成4年3月まで大学院経営学研究科運営委員のほか、情報処理教育推進会議委員長なども務められ、本学の教育目的達成に寄与されました。また、平成4年4月から平成7年1月まで、経営学部長として経営学部の発展に寄与されました。さらに、平成4年12月から平成10年11月まで学校法人松山大学評議員、平成7年1月から平成10年11月まで学校法人松山大学理事にご就任され、法人の発展にも貢献されました。このように、先生は、研究・教育上のご業績はもとより、数々の役職においても、松山大学の発展に大きな足跡を印されました。

学外にあっては、平成8年11月から平成11年10月まで大蔵省（当時）公認会計士第二次試験試験委員に任じられました。学会関係としては、平成5年4月から平成11年3月まで日本簿記学会理事、平成9年1月から日本税務会計研究学会理事、平成12年9月から日本会計研究学会評議員を務められています。また、昭和64年から愛媛県経営コンサルタント、平成8年4月から愛媛県特定調達苦情検討委員会委員に就かれているほか、愛媛県などの各種審議会・委員会の委員などを歴任されています。平成11年2月には商工観光労働行政への貢献で愛媛県県政発足記念日知事表彰を受けられており、社会貢献の面での功績も顕著です。

原田先生、長い間本当に有り難うございました。これからも私たち若輩者へのご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたしますとともに、先生の今後益々のご活躍ご健勝を祈念して献辞といたします。